

平成23年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		過去の再評価時の意見およびその後の対応	事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						当初	当初						
						最終	最終						
担い手育成基盤整備事業	501	津中部地区	津市	<p>【全体事業内容】</p> <p>整地工 A=105ha 道路工 L= 9.3km 用水路工 L= 14.5km 排水路工 L= 12.4 km 幹線農道整備 L=1.4km 農業用排水施設整備 L=2.2km 近代化施設用地整備(機械格納庫用地) 3箇所 農村公園用地整備 1箇所 農業集落道整備 L=0.07km 農業集落排水整備 L=0.83km</p>	H17	2,381		<p>■ 費用便益比 ・B/C=1.06</p> <p>■ 直接的効果 ・農地の大区画化や道路・水路の整備を行うことにより大型機械が導入されて効率的な営農が可能になり、排水不良が解消され田畑輪換による転作ができるようになりました。また、用水のバイブライズ化等によって維持管理が省力化され、担い手への農地集積も進展しました。</p> <p>・ほ場整備により大型機械の導入が進んでいます。乾田化により、小麦や大豆などの畑作物が作付けできるようになりました。</p>	<p>工事では農道や排水路の法面に植生緑化を施し、地区を横断する三泗川は現況のまま立木なども残し、工事には、低騒音・低振動・排ガス対策型建設機械を使用しました。</p>	<p>事業に着手した平成9年から米の入札制度が始まり、三重県産コシヒカリについては、落札平均価格は平成9年度は18,143円/60kgであったが、徐々に安価となっており、平成20年度には15,932円/60kgとなり、農家の販売価格も、平成9年の15,480円/60kgから13,334円/60kgと安価になっています。このため、稲作を中心とした土地利用型農業を展開している農業者は、収益を確保するため経営規模の更なる拡大を余儀なくされています。また、国ではTPP交渉への参加に向けた検討が始まっており、国内外の競争に耐えうる経営基盤の強化が急務となっています。</p>	<p>地域内5集落の住民と入り作農家、計560戸にアンケート調査を実施し、394戸から回答を得ました。事業実施による農業面での効果では、回答があった農家の98.5%が「効果があった」と評価していただきました。</p>	<p>ほ場整備事業における課題としては、 ①農家の高齢化や後継者不足、 ②農家数の減少により農業者だけで農地や農道、用排水路の維持管理が困難、 ③環境へ配慮した取り組み、が挙げられます。 また、国内食料自給率の低さや食の安全・安心に対する消費者ニーズの高まりなど社会的背景を踏まえ、事業を実施することが求められています。なお、県内におけるほ場整備事業は、既に83.5%が整備され、実施地区は大幅に減少しています。</p> <p>今後の農業生産基盤の整備については、 ①今後、水資源の効率的な利用や水管理の省力化につながるバイブライズ化や老朽化が進んでいる農業用施設の長寿命化を中心に整備を進めます。 ②営農組合や担い手農家への農地の集積を図り、低コストで生産性の高い農業を目指します。 ③自然環境と調和した整備のあり方について地域の合意形成に努め、より一層、環境や景観に配慮した事業推進を図ります。 また、農家のみでなく非農家も含めた地域全体で保全していく活動(農地・水・環境保全向上対策)を支援していきます。</p>	
				<p>【事業目的】</p> <p>狭小、不整形である農地の区画整理や農道、排水路の整備、用水路のバイブライズ化を行い、農業生産性の向上、農業経営の合理化、担い手の育成を図るものである。</p>									H17

平成23年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		過去の再評価時の意見およびその後の対応	事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						当初	当初						
						最終	最終						
海岸環境整備事業	502	錦漁港海岸	大紀町	【全体事業内容】 養浜 (A=3,000m ²) 突堤 (L=240.9m) 離岸堤 (L=120.0m) 護岸 (L=214.0m) 遊歩道 (L=362.0m) トイレ・シャワー棟 (付帯施設) 1式 駐車場 1式 緑地・広場 1式 植栽 1式 人工池 1式	H17	1,485		■ 費用便益比 ・B/C=1.43 ■ その他の効果 海浜には養浜や遊歩道等の整備により、地域の方の日々の憩いの場やレクリエーションイベント活動の場(町主催の花火大会・地域交流の祭り等)として利用されている。	磯遊び場の整備や、離岸堤・突堤の基礎工、被覆材料に自然石を利用したことにより、新たにエビやカニ、貝類等の生息域が創出されている。また、漂着ゴミ流入防止ネットによる流入ゴミの抑制とともに、台風後の清掃活動を町と連携して取り組んでいる。	紀勢自動車道が、平成21年2月に、紀勢大内山インターチェンジまで開通している。以前は、錦地区に向かうには、主に国道42号線を利用していたが、紀勢自動車道の開通により、当該地域へのアクセスが、非常に便利となり、今後とも、県内外からの、来訪者の増大を期待している。	錦漁港海岸の利用者(316名)及び錦漁港海岸周辺住民(110名)の計426名の方から回答を得た。総合的な評価では、70%以上の利用者が、「波が穏やかで、海水浴等の利用がしやすく、子どもを遊ばせやすい」など、満足な回答を得ている。	・海水浴場の利用者増によるゴミ処理や駐車場不足の問題に對しての取組みが必要である。 ・本事業は県と町との連携事業であり、今後も地域の活性化に繋がるよう、ハード・ソフト両面の改善と維持管理に連携して取り組んでいく必要がある。	
				【事業目的】 海岸環境整備事業により、砂浜や付帯施設を整備することで海辺を活用したレクリエーション活動、地区外の方との交流、地区への経済効果を期待する場を提供する。									H17

平成23年度三重県公共事業事後評価箇所一覧表(県事業)

(単位:百万円)

事業名	番号	箇所名	市町名	全体事業概要と目的	採択年度	完了年度		過去の再評価時の意見およびその後の対応	事業の効果	事業の環境面への配慮及び事業による環境の変化	事業を巡る社会経済情勢等の変化	県民の意見	今後の課題
						当初	当初						
						最終	最終						
港湾事業	504	津松阪港大口地区	松阪市	<p>【事業概要】 岸壁 (-7.5m)L=260m 泊地 (-7.5m)A=7.0ha 臨港道路 (W=7.5m) 港内整備 (フェンス工) L=565.0m</p>	H12	H12	4,714	<p>■再評価時の意見 再評価対象事業の要件に該当しない。</p> <p>■費用便益比 ・B/C=1.13</p> <p>■直接的効果 ・中央ふ頭を水深7.5mに増深したことで大型船への対応力が向上し、他港を利用した非効率な輸送を回避できることで背後企業の輸送コスト削減が図られている。</p> <p>・今回の改良工事を実施したことで、老朽化が進んでいた中央ふ頭岸壁の延命化が図られた。</p> <p>・物流ターミナルの整備に合わせて用地造成等を行ったことで、松阪港から中部空港への海上アクセスが可能となっており、旅客の移動コスト削減が図られた。</p>	<p>・ターミナルの整備に伴い陸上・海上輸送が効率されたことで、CO2排出量が年間132トン、NOx排出量が年間2.2トン削減された。</p>	<p>・松阪港区における入港船舶数や貨物量は、中部国際空港や羽田空港の埋め立てに使用される土砂が輸送されていた時期と比較すると、減少傾向にあるが、土砂以外の貨物はほぼ横ばいで推移している。</p> <p>・中央ふ頭に入港船舶数は、当該事業が供用を開始した平成18年の149隻から平成23年(推計値)には297隻まで増加する見込みである。</p> <p>・松阪港区に入港している船舶のうち、水深7.5mを必要とする船舶が多数入港している。</p> <p>・中央ふ頭を利用している荷主企業は、来年を目途に更なる大型船を投入する計画であり、船型はさらに大型化する傾向にある。</p>	<p>・岸壁の増深と港内整備によって大型の外航船が入港可能になったため、平成23年から中央ふ頭を利用している。今後も引き続き利用したい。</p> <p>・中央ふ頭が整備されたことで、入港船が分散し大口ふ頭で発生していた滞船がなくなった。</p> <p>・中央ふ頭は大口ふ頭と比較してふ頭用地が広く、段差もないため安全な荷役が可能である。今後、積極的に利用していきたい。</p> <p>・中央ふ頭の整備によって、安全に接岸できるようになった。</p> <p>・所定の水深が確保できるよう定期的な浚渫をお願いしたい。(松阪港は河川に近接しているため、航路の埋没が起きてしまう。)</p>	<p>・中央ふ頭における貨物および旅客の利用促進を図っていく必要がある。</p> <p>・所定の水深を確保し港湾機能を低下させないよう、定期的な水深の計測と航路・泊地の浚渫を行っていく必要がある。</p>	
				<p>【事業目的】 本港は三重県中南勢地域における重要な物流拠点であるが、施設の老朽化や船舶の大型化、背後企業からの貨物輸送コスト削減のため、大型船舶が接岸可能な岸壁整備等が望まれていた。そのため、平成12年から松阪港区中央ふ頭について、係留施設や泊地等の整備を行い物流ターミナルの整備を行うことで物流効率化を図る。また、物流ターミナルの整備に合わせて旅客ターミナルに係る用地造成を行おうことで、旅客の移動効率化を図る。</p> <p>平成23年時点でB/Cは、1.13である。</p>									H18 (H22)